『地理総合／歴史総合／公共』の「地理総合」

第１　高等学校教科担当教員の意見・評価

１　前文

「地理総合」部分（配点 50 点）は，第１問から第４問における 16 の設問で構成され，学習指導要領における「A 地図や地理情報システムで捉える現代世界」,「B 国際理解と国際協力」,「C 持続可能な地域づくりと私たち」の目標や内容を踏まえた出題である。なお，第１問と第２問は『地理総合，地理探究』との共通問題である。

問題作成方針では，学習指導要領において育成を目指す資質・能力を踏まえ，地理に関わる事象を多面的・多角的に考察，構想する過程が重視されている。なお，評価に当たっては，15ページに記載の８項目の観点により，総合的に検討を行った。

２　内容・範囲

第１問　乾燥・半乾燥地域の生活文化の多様性に関して，地図や資料から情報を読み取り，地理的事象に関する知識を基に，場所や人間と自然環境との相互依存関係などに着目して，世界各地における気候，地形と関連の深い生活やその変容について多面的・多角的に考察する問題で構成されている。『地理総合，地理探究』との共通問題である。

問１　モロッコ内陸部で見られる伝統的な建物と農業に関する写真を読み取り，住居や食文化の特徴について考察する問題。

問２　西アジア周辺の色別標高図を読み取り，降水量の少ない３地点における水資源利用の様子について，各地点周辺の自然環境や社会環境に関する知識と関連付けて考察する問題。

問３　南アメリカ大陸の地点における雨温図と生活文化の特徴を読み取り，緯度や標高の違いに着目して，それらが見られる場所を判別する問題。

問４　アジア周辺におけるいくつかの家畜の分布図を読み取り，気候や地形，文化的背景に関する知識を基に，グローバル化に伴う飼育状況の変容の背景を考察する良問。

第２問　青森県津軽平野とその周辺地域の第一次産業と自然環境との関わりについて，地図や資料から情報を読み取り，空間的相互依存作用や地域などに着目して，それぞれの市における農業の特徴，ため池の成り立ちと災害時のリスク，十三湖のシジミ漁の持続可能性，青森県産リンゴの輸出動向や季節性について，多面的・多角的に考察する地域調査の問題で構成されている。『地理総合，地理探究』との共通問題である。

問１　津軽平野とその周辺地域の地形の特性を示した地図や，それぞれの市ごとの農業産出額に占める割合の特徴を示した資料を読み取り，三つの市の農業の特徴を考察する問題。

問２　ため池周辺の等高線を読み取り，ため池が造られた地点の地形的特徴やハザードマップに示された，ため池決壊時のリスクについて判断する問題。

問３　十三湖周辺の地図や異なる年代の空中写真，シジミ漁に使用する道具の写真から情報を読み取り，地形の変化やシジミ漁の持続可能性，他産地との差別化などを考察する問題。

問４　青森県産のリンゴに関する聞き取り調査の内容を基に，国・地域別輸出量とその変化や南北半球の季節の違いを資料から読み取り，日本からのリンゴ輸出における他地域との結び付きについて考察する良問。

第３問　日本の自然環境と防災に関して，地図や資料から情報を読み取り，人間と自然環境との

相互依存関係や地域などに着目して，降水量や風速の季節変化，河川勾配，特徴的な小地形，ＧＩＳによる避難施設の立地分析について多面的・多角的に考察する問題で構成されている。

問１　夏と冬，降水量と風速の上位30位までの観測地点の分布を示した地図を読み取り，日本海側と太平洋側の気候の違いや季節変化などに着目して，各指標を判断する問題。

問２　三つの河川勾配を示した図から，各河川の特徴を読み取り，それぞれの河川について説明した文を判断する問題。系統地理的な自然環境の理解が問われている。

問３　四つの地図を読み取り，各地図がＶ字谷，湿地，カルスト地形，氷河地形のいずれに該当するかを判断する問題。系統地理的な自然環境の理解が問われている。

問４　避難施設の立地と洪水及び高潮の浸水想定区域を示した二つの地図と，ＧＩＳにより分析した結果を示した図を読み取り，各地図が示す災害と，どのような条件で分析した結果かを考察する良問。

第４問　現代社会における地球的課題と国際協力に関して，地図や資料から情報を読み取り，空間的相互依存作用や地域などに着目して，エネルギー消費，地球温暖化の影響，発展途上国の都市問題，日本の国際協力活動について多面的・多角的に考察する問題で構成されている。

問１　三つの国の１人当たりエネルギー供給量と二酸化炭素排出量の変化について，産業構造の高度化と両指標の関係や，エネルギー構成の各国の差異を踏まえて考察する問題。

問２　アメリカ合衆国における降水量の変化を地図から読み取り，地球温暖化の進行による各地域の農業や自然災害への影響について考察する問題。

問３　発展途上国の大都市が直面する課題や対策について，写真から読み取れる事柄と，スラムや交通渋滞に関する知識を関連付けて判断する問題。

問４　海外における日本のＮＧＯ団体数，日本のＯＤＡ供与額，海外における日系企業の拠点数の分布を示す地図からそれぞれの傾向を読み取り，各指標を判断する問題。

３　分量・程度

第１問　全体的には基本的な知識やそれを基にした思考力を問う標準的な難易度の設問で構成されている。問３は，気候や農業についての個別的知識が求められ，「地理探究」を履修していない受験者にはやや難易度が高い。資料や文章量ともに適切である。

第２問　地図や資料から読み取った内容を基にした思考力を問う標準的な難易度の問題で構成されている。問２，問３は，資料の読解が平易であり，難易度が低い。資料や文章量ともに適切である。

第３問　基本的な知識・技能やそれを基にした思考力を問う標準的な難易度の設問で構成されている。問４はＧＩＳにより分析した結果の図は，多くの受験者にとって見慣れないものであったと思われるが，リード文や条件を読んで考察できる内容である。資料や文章量ともに適切である。学習指導要領における「地理総合」Ｃ(1)の目標や内容では，自然災害を基にした自然環境の理解が求められているが，問２，問３の出題内容は，その対応が見出しにくい。

第４問　全体的には基本的な知識・技能やそれを基にした思考力を問う標準的な難易度の設問で構成されている。問２は，アメリカ合衆国における農業分布についての個別的知識が求められ，「地理探究」を履修していない受験者には難易度が高い。資料や文章量ともに適切である。

４　表現・形式

第１問　多様な資料が用いられており，身に付けた概念的な知識や地理的な見方・考え方を働かせて多面的・多角的に考察する出題形式で適切である。いずれの資料も情報過多にならないよ

うに提示され，かつ地域の特徴を明瞭に読み取ることができ，適切である。

第２問　地域調査として，生徒が地図や統計資料などによる調査や，実際に聞き取り調査をする場面が設定され，地域を多面的・多角的な視点から考察する出題形式で適切である。地域調査の大問として，各設問は，生徒の興味・関心に応じた探究過程とし，設問ごとのつながりをもたせるなど，一層の工夫が求められる。

第３問　多様な資料が用いられており，身に付けた概念的な知識や地理的な見方・考え方を働かせて多面的・多角的に考察する出題形式で適切である。問４は，ＧＩＳの有用性を感じられる「地理総合」らしい問題で，資料は教材としての価値も大きい。問１は，観測地点の数が多く，地図がやや読み取りにくい。

第４問　多様な資料が用いられており，身に付けた概念的な知識や地理的な見方・考え方を働かせて多面的・多角的に考察する出題形式で適切である。問３は，写真だけでバス専用レーンと判断してよいのか戸惑う受験者がいたことも予想される。したがって，バス専用の標識等が付された写真を用いるなど，資料の示し方について一層の工夫が求められる。

５　まとめ（総括的な評価）

問題作成の基本的な考え方及び地理の問題作成方針に沿って，学習指導要領において育成することを目指す資質・能力を測るための良問で構成されている。特に，高等学校教育で身に付けた，大学教育の基礎力となる知識及び技能や思考力・判断力・表現力等を発揮して解くための文章や統計資料，主題図といった様々な資料の読解力が試される試験となっている。「地理総合」で扱う内容が万遍なく出題され，標準的な問いを中心にバランスよく配置されている。中学校までの学習を基にしながら幅広い学習が求められる問題構成である。

第２問では場面設定がなされ，地域を調査する際に着目する視点，地図や空中写真の判読や聞き取りなどの多様な調査方法，地理的な考察の仕方，調査した内容のまとめ方などが提示され，学校現場に参考となる出題となっている。各設問は，生徒の興味・関心に応じた探究過程とし，設問ごとのつながりをもたせるなど，一層の工夫を求めたい。第１問では乾燥・半乾燥地域における生活文化の多様性とその変容に関して，基本的な知識を基に，地理的な見方・考え方を働かせて考察することを求めており，学習者や授業者に対して必履修科目である「地理総合」の学習において身に付けるべき資質・能力の方向性を示していると言える。

全体的には適正な難易度であり，受験者にとって初見となる資料が付された問題も見られたが，与えられた資料から情報を読み取り，解答することが可能である。

一方で，第３問の問３や第４問の問２のように「地理総合」の学習では必ずしも取り扱わないであろう個別的知識を必要とする設問も見られる。基礎的・基本的な学習事項の理解を基に，地理的な見方・考え方をしっかりと働かせて正答を導くことができる問題が出題されるよう，求められる知識の水準については留意が必要である。昨年度に比べ，写真や地図などが読み取りにくい設問や，選択肢となる文の表現の意図する内容がわかりにくい設問は減少し，受験者が身に付けた資質・能力を適正に評価できるよう十分に配慮されている。今後も継続して，高等学校教育の学習実態に即した程度や表現・形式に留意した出題といった改善をお願いしたい。

全体を通して，高等学校での学習内容を基にした基本的な知識や思考力を問う問題，探究的な学習の例となる問題が随所に見られ，高等学校における授業改善の指針となる試験である。